

(学校運営協議会・報告様式)

令和5年度 第5回 明生小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和5年12月8日(金) 10:00~12:00

2 場 所 明生小学校 会議室および教室

3 あいさつ

○2学期は様々な行事を行う中で学校運営協議会の皆様にお世話になった。特に明生秋祭りでの焼き芋コーナーでは、ボランティアの存在も、保護者や地域に広く知ってもらうことができた。また、高学年の家庭科実習をはじめ日常の授業支援、外国籍児童支援など大変お世話になった。3学期、そして来年度も是非お力を貸していただきたい。

4 協議内容

(1) 今後の学校支援について

○3学期も引き続き日常的に来校できる時間帯で、1・2年生を中心に支援していただきたい。

(2) 学校関係者評価について

○6月に一度コメントをいただいた。それ以降の授業支援での子どもたちの様子や、本日の授業参観を通して気が付いたこと、ご意見等あればコメントをいただきたい。2月の学校運営協議会で成果・課題を職員で記入したものを、確認していただき、来年度の学校経営につなげていきたい。

○2年生の今の子どもたちを1年生の頃や2年生のはじめの頃と比べると、確実に力をつけてきている。授業態度もよくなってきている。そのためにはその都度丁寧に指導し見過ごさないようにしなければならない。子どもたちの成長がとてもうれしい。

○国語で文章を読んで感想を書いたり、自分で考えて書いたりすることが苦手。言葉の意味を知らないことがあり、言葉を一つひとつ教えていかなければならない。

○まだ九九を覚えていない子がいるが、九九は覚えなければ問題が解けない。

○高学年の家庭科実習の支援で、例えばミシンで返し縫いをするとき、「なぜ返し縫いが必要なのか」という「なぜ」(理由)を教えなければならぬと感じた。

○高学年になると、理由がわからないと、理屈が理解できないと取り組めない。取り組もうとしない。

○高学年になると友だちへの声かけなど、いろいろ考えて不安になる。なかなかグループになれなかったり、同じグループなのに冷めていたりする。どの教科に

おいても必要なのは、子ども同士のつながりの中での安定感で、これを得るために中学年からしっかりと仲間づくりに取り組んでいかなければならない。

○高学年の学習内容は難しく、支援も大変。家庭科実技や仲間づくりの面で是非助けていただきたい。

(3) アドバイザーより

○子どもの個々の成長について語る姿から、皆さんが日頃から子どもたち一人ひとりの成長に丁寧に関わってくださっていることが感じられた。

○学校関係者評価について、2月に先生方の成果・課題を見ながら、よりコメントをいただきやすくなると思われる。来年度の学校経営方針につなげるために、是非コメントをお願いしたい。

5 授業参観（1年生 生活科 「ゆびあみ（あやとりのひも）」）

○授業が始まったときは編み方がわからない子どもたちがたくさんいて、どうなるのかと思ったが、ボランティアさんたちの力はすごい。できるようになったとき、目が輝いていた。子どもたちの喜びはボランティアさんのおかげ。

○低学年の子どもたちは、「教えてもらって、自分ができるようになりたい」という段階。できない友だちに「教えてあげる」ということには、なかなかならない。中学年、高学年になると違ってくる。このような子ども同士のつながりや関係づくりが高学年の課題解決にもつながってくる。

6 次回日程

第6回学校運営協議会

○2月16日（金） 10：00～ （予定）